

Ⅲ. 共通調査項目

4. 共通調査項目の概要

本事業では、各実証実験において実施する環境調査について、調査項目および手法をできるだけ統一するために、共通調査項目を設定した。設定した共通調査の概要は表 14 に示す通りである。

表 14 共通調査項目と調査概要

調査項目		時期	備考
物理	地盤高測量	調査開始時等の 1 回 ※新たな実験場所、地形変化の大きな場所のみ	地盤高の面的把握
	流況, 波高	夏季, 冬季の連続観測	B+10cm
水質等	水温, 塩分, DO	夏季, 冬季の連続観測 ※DO は貧酸素影響が考えられる場所のみ	B+10cm (水温, 塩分) B-5cm
	蛍光強度 (Chl-a, フェオフィチン), 濁度の連続観測	夏季, 冬季の連続観測 蛍光強度, 濁度は検量線により換算	B+20cm
	SS, VSS	SS, VSS: 連続観測の設置 or 回収時	採水分析 (B+20cm)
底質	粒度, 強熱減量, 硫化物, COD, 含水率, Chl-a, フェオフィチン	四季: 6, 8, 10, 1 月	表層 2cm を 3 か所以上で採取し、混合物を 1 検体として分析
沈降物	セジメントトラップによる採取	夏季, 冬季の連続観測機器の設置・回収時 (大潮時) に 1 日, 15 日設置 (分析は水圏科学で実施)	住吉地先の 2 地点で実施
生物	初期稚貝調査, アサリ生息状況調査, 網袋などによる試験	初期稚貝調査 (5, 6, 8, 10, 11, 12, 1 月)、生息状況調査 (底質調査時等)、網袋試験等 (各計画による)	初期稚貝の 5 月調査は地元漁協等との調整が終えている場合に実施

5. 地盤高測量

5.1 調査時期

各実証実験における調査実施時期を表 15 に示す。

表 15 地盤高測量調査の実施時期

実施地先	調査時期
福岡県大和高田地先 302 号地区	平成 30 年度調査結果を利用
福岡県柳川市地先 3 号地区	1 回(令和元年 6 月)
佐賀県東部地先 諸富地区	1 回(令和元年 5 月)
長崎県小長井地先	過年度調査結果を利用
長崎県島原市地先 猛島地区	平成 30 年度調査結果を利用
熊本県岱明地先 鍋地区	2 回(令和元年 5 月, 11 月)
熊本県住吉地先	平成 30 年度調査結果を利用

5.2 調査地点

各実証実験における調査実施場所を表 16 に、過年度および今年度の測量範囲を図 1 から図 7 に示す。

表 16 地盤高測量の調査場所

実施地先	調査地点
福岡県大和高田地先 302 号地区 (図 9)	未利用泥干潟上 : 1 地点
福岡県柳川市地先 3 号地区 (図 10)	干潟上 : 1 地点
佐賀県東部地先 諸富地区 (図 11)	干潟上 : 1 地点 (泥場、泥混じり砂場、砂場を含む範囲)
長崎県小長井地先 (図 12)	長里漁場(自営) : 1 地点 釜漁場 : 1 地点
長崎県島原市地先 猛島地区 (図 13)	干潟上 : 1 地点
熊本県岱明地先 鍋地区 (図 14)	干潟上 : 1 地点
熊本県住吉地先 (図 15)	干潟上 : 1 地点



図 9 測量範囲(福岡県大和高田地先 302 地区)

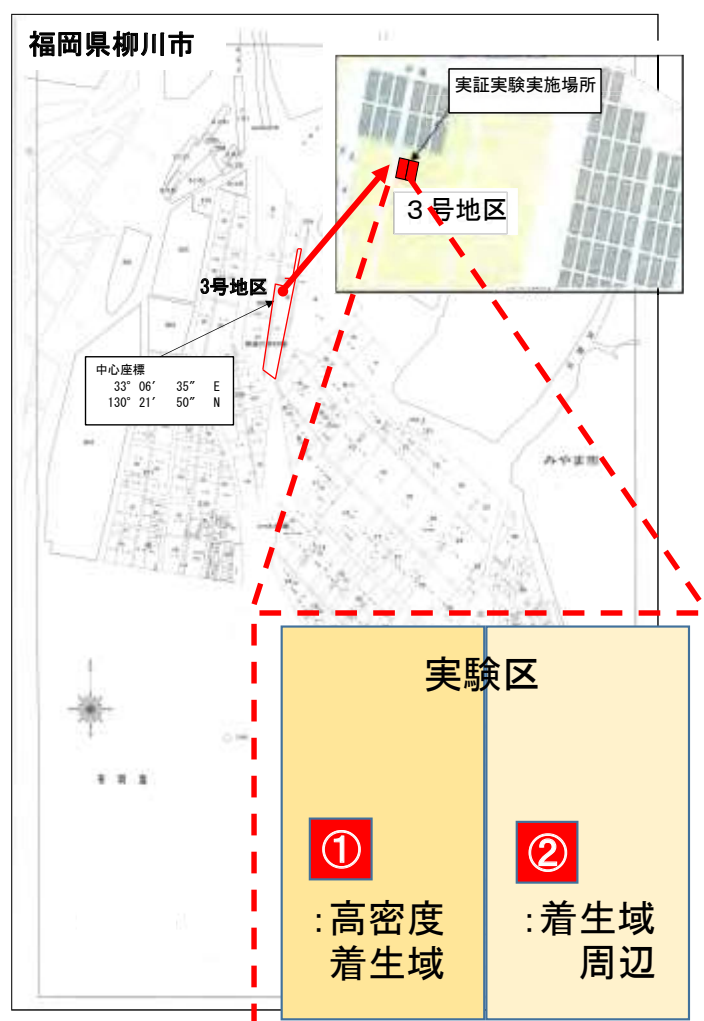


図 10 測量範囲(福岡県柳川市地先 3 号地区)

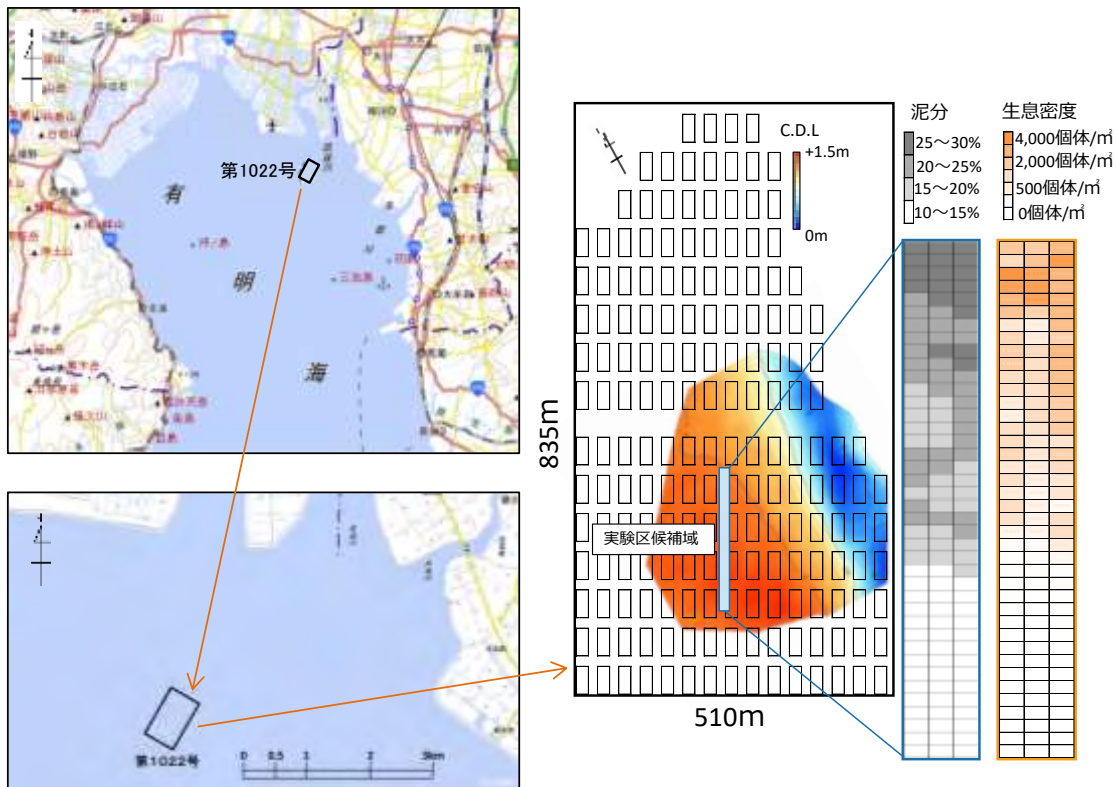


図 11 測量範囲(佐賀県東部地先 諸富地区)

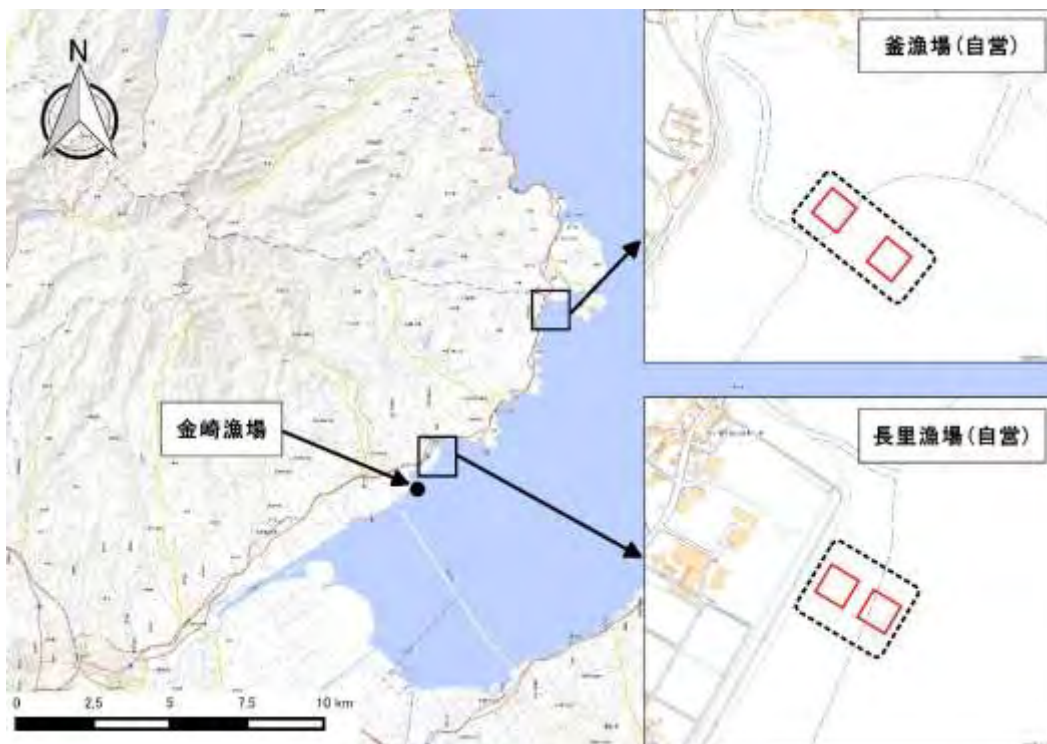


図 12 測量範囲(長崎県小長井地先 長里漁場, 釜漁場)

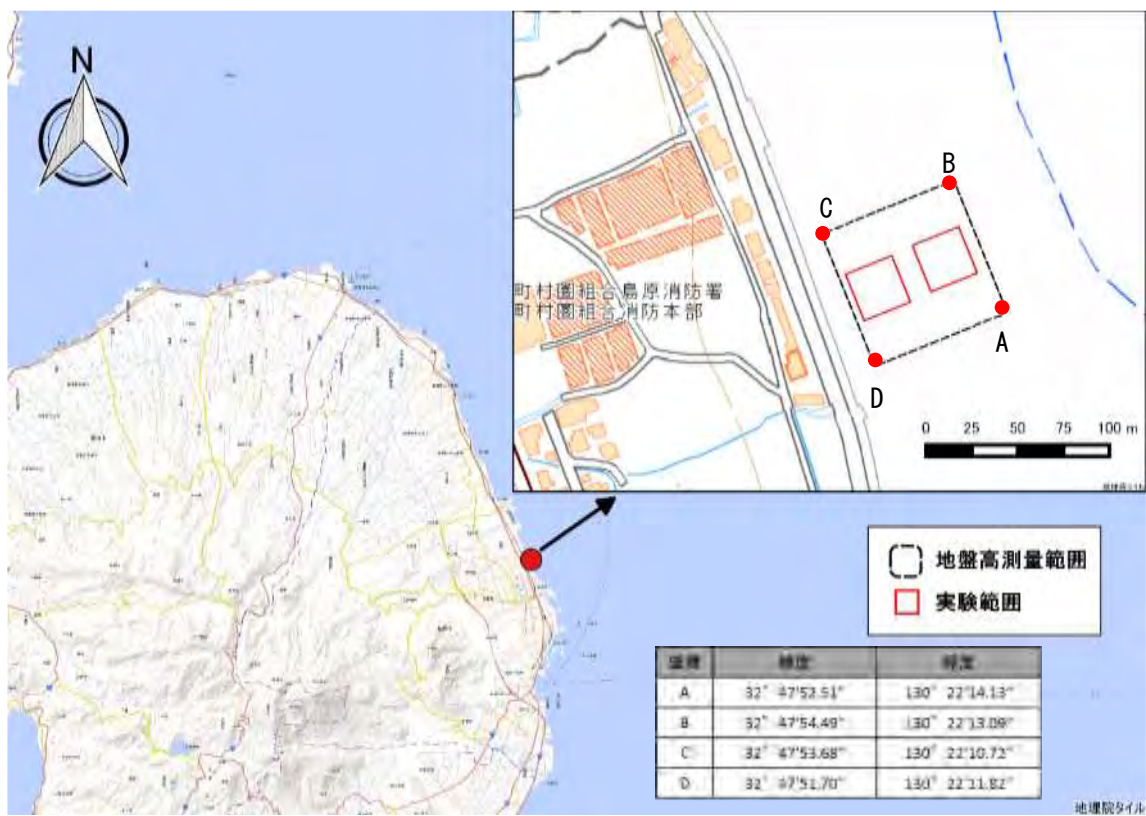


図 13 測量範囲(長崎県島原市地先猛島地区)

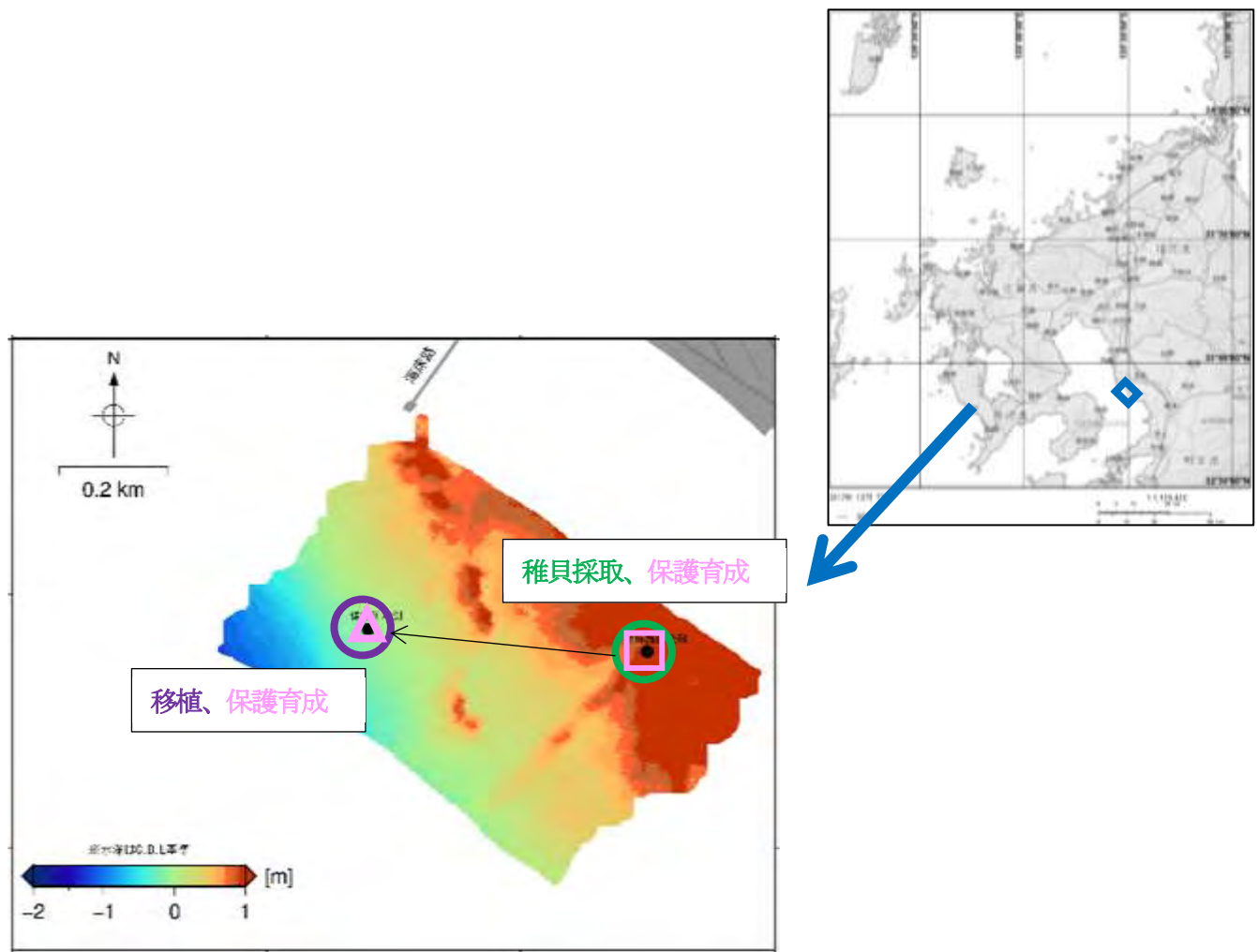


図 14 測量範囲(熊本県岱明地先 鍋地区)

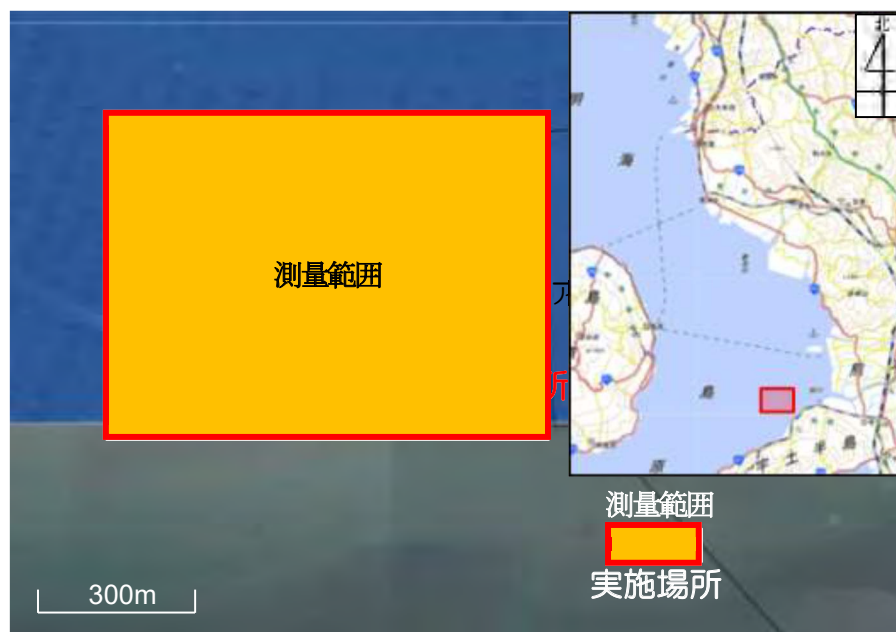


図 15 測量範囲(熊本県住吉地先)